



発行：真宗大谷派 常入寺
富山市東老田 787 番地
電話(076)436-0816
FAX(076)436-2766
携帯090-3764-3983
発行責任：青井和成

はつまいり 修正会

一月一日午前六時より

初老や還暦の方々が団体参拝されま
すので修正会の始まる時間が変更と
なる場合もございます
年始は一日午前四時半より二日午後
四時まで受付します

子ども初参り

お正月にお参りいた
いたお子さんに小学
生以下、先着20名様
におみやげにお菓子を
用意しています。
お子さん、お孫さん
と一緒に参りくださ
い。



初参り・初詣は ご縁の深いお寺で いたしましょう

二〇一〇年 年 期 (忌) 表

一周 期	三回 期	七回 期	十三 回期	十七 回期	廿三 回期 (廿三回忌) にじゅうさんかいき	廿五 回期 (廿七回忌) にじゅうごかいき	廿七 回期 (廿七回忌) にじゅうななかいき	卅三 回期 (廿七回忌) さんじゅうさんかいき	五十 回期	百回 期
平成 二〇 〇九 年 命終	平成 二〇 〇八 年 命終	平成 二〇 〇四 年 命終	平成 一九 九八 年 命終	平成 一九 九四 年 命終	昭和 一九 八八 年 命終	昭和 一九 八六 年 命終	昭和 一九 八四 年 命終	昭和 一九 七九 年 命終	昭和 一九 六一 年 命終	明治 一九 一一年 命終

《法要について》 法要は年忌というものに基
て行われています。しかし仏教に基づくものではなく慣
習からくるものです。ですから年忌になったから絶対に
勤めなければいけないということはありません。基本的
に法要とは法(ほう)の要(かなめ)を聞くという行事なので、いつ
しなればいけないということではなく、法要を催した
くなった時に催せばよいものです。

東本願寺写真ニュース

2009. 11. 28

—報恩講最終日—

御満座が勤められました

御影堂は参拝者で満堂となりました

<http://www.higashihonganji.jp/news/news.html>

報恩講最終日の28日は、日の出前から開門を待ちわびて並んでいた参拝者が、開門と同時に勢いよく御影堂へ入堂し、午前6時30分からお勤めする結願晨朝（けちがんじんじょう）では、参拝者のお念仏の音が響きわたりました。

午前10時からの御満座（ごまんざ）に先立ち、北海道教区西照寺住職の小川一乗氏による祖徳讃嘆（そとくさんだん）が行われました。祖徳讃嘆は、念仏の教えを顕らかにされた宗祖親鸞聖人の恩徳を讃嘆する場として、毎年行われています。

そして、御満座が勤まる頃になると、多くの参拝者で満堂となりました。御満座では、当派のみに伝承されている坂東曲（ばんどうぶし）がお勤めされました。体を前後左右に揺り動かし、拍子を取りながら勤めるダイナミックな声明に、御影堂は厳かな空気に包まれました。

御影堂門開門の様子

早朝の御影堂

満堂の中での「坂東曲」

祖徳讃嘆（小川一乗氏）

「忌む」と言ふことを考える

「年忌」や「忌中」という言

葉で使われている忌という漢字を私たちは余りよい意味として使っていないのが現状ではないでしょうか。嫌うもの、タブー、はばかるもの、避けるもの、というような意味合いで使うことがほとんどなのではないでしょうか。しかし本来はどうもそういう意味であつたのではなかったようです。

辞書を調べてみると忌みという言葉には「忌み避けるべきこと。禁忌。はばかり」という忌みもありますが、もう一つ、「神に対して身を清め穢れを避けて慎む事」というようにかかれています。そしてこちらの方が元々の意味であり、転じていつて、嫌う、はばかるものと言うように変化していったようであります。

身を清めるということや、穢れを避けるということは私たちの教えに基づくとふさわしくない言葉ですが、私なりにそのことを踏まえて訳するならば、身をただして取り組んでいくという意味あいがある元もその言葉の持っている意味であつたのでは

はないでしょうか。

そういう視点にて年忌とすることを考えれば嫌ったり、はばかるべき年という意味ではなく、身をただすべき年と言うことになると思います。有縁の方がいのちを終えて行かれて三年経つ、七年経つ、そういう歳隔たった今、有縁の人々が命終えていくという事実を、身をただし改めて受け止めていく、自分が生きると言うことを考える仏事が、年忌法要というものではないでしょうか。咨嗟がもたらす、災いなどを避けたり、自分の所に幸を運

んでもらうようにするための仏事ではありません。有縁の方々の死という事実をおして我がいのち、我が人生を問う仏法に聞く行事が法事であると私は理解しています。「忌中」ということも、何かを恐れて慎んでいる期間ではなく、死という事実を目の当たりにしたとき、我が死、我が生を身をただして考えていくときが忌中という期間なのでしょう、ですから、押しつけられるものでもなく、こうしなければならぬということもなく、期間も定まらず、自らの思いに基づいて行なうものなのでしょう。

2011年
(平成23年)

宗祖親鸞聖人
750回御遠忌法要

今、いのちがあなたを生きている

本山御遠忌団体参拝募集
～50年に1度の法要です。一緒に京都の本山へお参りしましょう！～

期 日：2011年5月19日～20日
参加費：28,000円

問い合わせ 常入寺 ☎076-436-0816